

# 島庄遺跡第31次 —石舞台古墳東側隣接地の調査—

今回の調査は、多武峰に向かうバイパス道路路線計画の策定に先立つ、遺跡有無の確認調査です。今年度は石舞台古墳東方の尾根にある棚田のうちの2筆を調査対象としました。低い西側を第1調査区、東側を第2調査区と呼びます。第1調査区の長さ74m、第2調査区の長さ68m、幅2mの調査区を設定しました。2006年2月初めより着手し、現在も調査は継続中です。

〈第1調査区〉 大型柱穴が1基出土しました。柱穴の大きさは一辺1.8m、深さ1.8mで、径30cmの柱の痕跡があります。7世紀前半の土器が出土しました。

〈第2調査区〉 ここでも大型柱穴が1基出土しました。一辺1.6m、深さ1.5mで、径30cmの柱の痕跡があります。その他に、主軸方向が東へ25°振れた柱穴列が出土しました。調査区の幅が狭いため全体の大きさは不明ですが、少なくとも2列確認できます。北側の柱穴列は、柱穴の大きさが一辺0.5m前後、柱

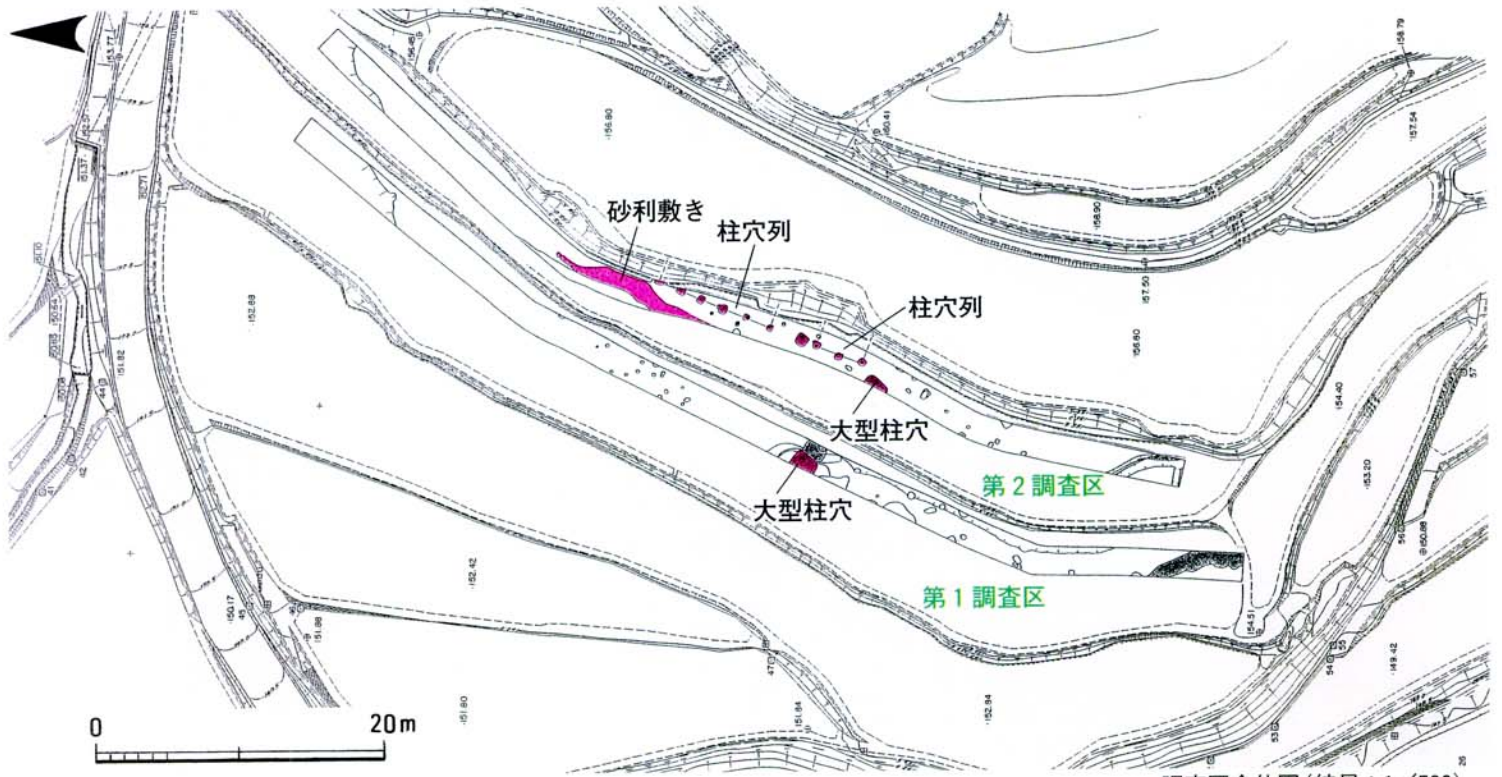
間が1.7m前後です。5間ぶん確認しました。南側の柱穴列は、柱穴の規模や柱間距離は北側柱穴列と同じです。2間ぶんあります。北側と南側の柱穴列が同一の柵になるのか、別の建物になるのかは不明です。また、北側の柱穴列に接して砂利敷きが出土しており、柱穴列との関係性が濃いものと思われます。砂利敷き部分より7世紀前半の土器が出土しました。

【調査成果】 今回出土した柱穴列の方向は、これまで島庄遺跡で知られる建物群の方位のいずれとも異なり、石舞台古墳の主軸とはほぼ同じです。出土土器が示す7世紀前半は、石舞台古墳の時期とも合致します。大型柱穴には、高い柱が立てられていたと思われます。檜隈陵(欽明天皇陵)の周囲に氏族ごとに大柱を建てたという日本書紀の記事を参考にすれば、石舞台古墳に対して建てられた大柱の痕跡であるかもしれません。今回の調査地周辺には、石舞台古墳と密接な関係のある遺構が広がっているようです。

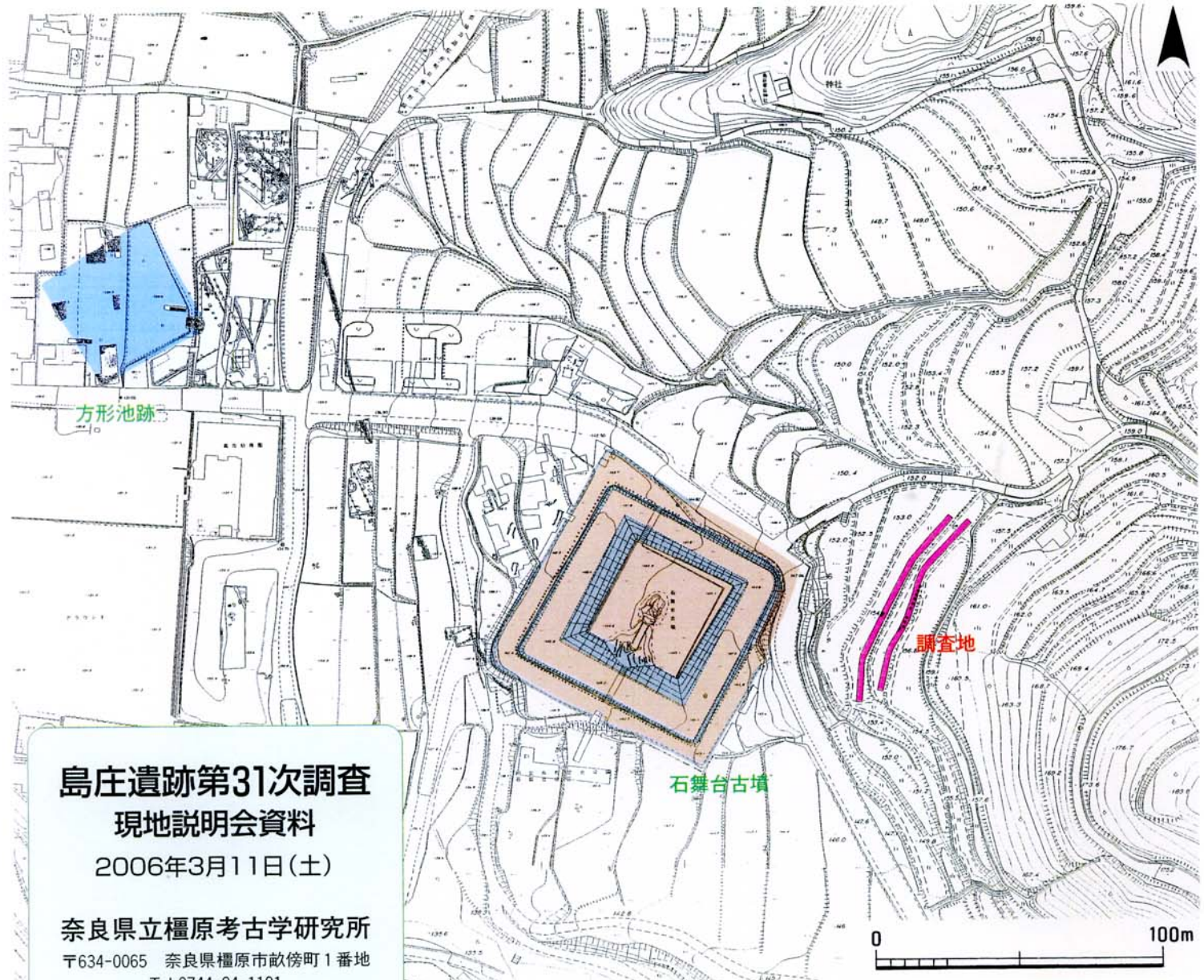


調査区と石舞台古墳(北東側より)

大型柱穴2基(南東側より)



調査区全体図(縮尺: 1/500)



調査区位置図(縮尺: 1/2,000)

島庄遺跡第31次調査  
 現地説明会資料  
 2006年3月11日(土)

奈良県立橿原考古学研究所  
 〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地  
 Tel.0744-24-1101